



研究発表会

in 福島

日程：
研究発表会 平成 28 年 7 月 6 日 (水)～7 日 (木)
口頭発表 68 件、ポスター発表 53 件、参加者 延べ 400 名余
国際シンポジウム 7 月 8 日 (金)
招聘講師 6 名、参加者 150 名余
企業展示 参加企業 41 社 7 月 6 日 (水)～7 日 (木)
懇親会 7 月 6 日 (木) 18:00～
会場：とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）



第 5 回 環境放射能除染研究発表会は、7 月 6 日 (水)～7 月 7 日 (木) に、福島県福島市に位置する「とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）」にて開催されました。会場は福島市のシンボルである信夫山しのぶやまのふもとに位置する静かでゆったりしたところです。

天候に恵まれ、多くの研究者や実務者の皆様のご参加を得て、盛大に、無事に終了することができました。大会委員および実行委員として参加いただいた総人数は 41 名にもなります。また、開催当日には、受付等を地元の福島県環境測定・放射能計測協会様および福島県環境創造センター様か

らご支援をいただきました。さらに、今回は新企画として、環境保護団体等や地元 NPO 等の展示および地元物産販売を実施したことから、実行委員の皆様には煩雑な作業をお願いすることとなりました。協力実施にあたって半年以上の準備および開催日の運営にご支援いただいた実行委員等の皆様、誠にありがとうございました。

開催にあたっては、39 団体という多くの学会・協会等の諸団体より共催および後援をいただきました。各団体等の HP 等での紹介もあり、多くのご参加をいただけたものと感謝しております。また、マスメディアの皆様には開催記事のご協



▲地元物産販売▲



▲環境保護団体等や地元 NPO 等の展示



▲口頭発表▲



▲ポスター発表・企業展示

▲懇親会▲



力をいただきました。特にプログラムを掲載していただいた環境新聞社様、地元の福島民報社様、福島民友新聞社様には深く感謝の意を表します。これからもご支援をお願いいたします。

末筆となりましたが、文化センター様の親切なご指導ご協力、福島市観光コンベンション協会様、懇親会場のザ・セレクト福島様、展示設備準備のセレスポ様などご協力いただいた企業の皆様にも厚く御礼申し上げます。

それでは、以下に開催の規模など概要を紹介します。

(1) 研究発表数

口頭発表 68 件、ポスター発表 53 件で、合計 121 件の発表がありました。粘土学会のセッションや国立環境研究所・

JAEA・福島県環境創造センターの3団体のジョイントの企画セッションが実施されたこともあり、昨年度より多くの発表がありました。

(2) 研究発表および国際シンポジウムへの参加者数

研究発表には 400 名余りの参加がありました。国際シンポジウムは 150 名余りの参加者数でした。

(3) 企業展示

企業展示数については商業ベースの展示ブースが 41 件と従来並みでした。なお、今回は、除染や復興関係の行政等および地元 NPO や環境団体等の参加をいただき、48 団体の出展をいただきました。展示団体の皆様にご協力を感謝いたします。

(実行委員会幹事長 峠和男)

主催：一般社団法人 環境放射能除染学会

共催：環境省 (国際シンポジウム)

公益社団法人 日本工学アカデミー

公益社団法人 日本水環境学会

公益社団法人 日本分析化学会

NPO 法人 Ecolink21・環境国際総合機構

一般社団法人 日本粘土学会

後援：国立研究開発法人 国立環境研究所

福島市

一般社団法人 土壌環境センター

公益社団法人 大気環境学会

一般社団法人 日本機械学会

公益社団法人 地盤工学会

日本放射化学会

国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構

公益社団法人 日本気象学会

一般財団法人 日本環境衛生センター

一般社団法人 日本建設業連合会

一般社団法人 海洋調査協会

日本商工会議所

一般社団法人 福島県環境測定・放射能計測協会

一般社団法人 廃棄物資源循環学会

日本放射線安全管理学会

公益社団法人 日本化学会

公益社団法人 日本保安用品協会

公益社団法人 環境科学会

福島県

一般社団法人 日本環境化学会

一般社団法人 日本原子力学会

公益社団法人 高分子学会

公益社団法人 化学工学会

エコケミストリー研究会

公益社団法人 土木学会

中間貯蔵・環境安全事業株式会社

一般社団法人 日本環境アセスメント協会

NPO 法人環境測定品質管理センター

一般社団法人 日本環境測定分析協会

福島商工会議所

東京商工会議所



◀▲新企画の看板も

▼受付の様子



(1) 口頭発表会場からの報告

口頭発表は、3日間にわたり、大ホール(1752名収容)、小ホール(379名収容)の2会場で行われました。68名の講演者による発表が行われ、会場は熱心な参加者で埋まり常に熱気に溢れていました。

今回の発表時間は、12分(発表10分、質疑応答2分)とさせて頂きました。短い時間の中でありましたが、講演者に対して様々な質疑が投げかけられ、発表についての理解がよりいっそう深まったと感じております。

今回から、発表時間の管理については、座長の先生方のご協力も頂き、パソコンの画面上で残り時間の表示を行う手法を採用したので、ほぼスケジュール通りの進行が出来まし

た。参加者からは、時間通りの進行を評価していただいたことは大変ありがたいと感じております。

また、その一方で、熱心な質疑応答が行われた事から、質疑の時間をもう少し確保してほしいとのご意見もあり、今後の課題とさせて頂きたいと考えております。

今回も、非常に多くの参加者を迎えることができ、講演者からも大きな手ごたえを得ることができたとの感想をいただきました。次回の会場運営においても、多くの講演者と参加者を迎え、より充実した口頭発表会場の運営を目指していきたいと思います。

(口頭発表会場運営担当実行委員 高井義則：
株式会社堀場製作所)



▲福島県生活環境部 環境推進監
島田淳様よりご祝辞

▲福島市副市長 山本克也様
よりご祝辞



▲河津実行委員長の開会挨拶



▲環境省 福島環境再生本部
副本部長 小沢晴司様のご挨拶



▲パネルディスカッション

▼大ホール口頭発表風景

▲小ホール口頭発表風景



座長の先生方も
力が入ります▼▼



(2) ポスター発表／企業展示会場からの報告

ポスター発表および企業展示は3階展示室にて実施されました。特に、企業展示は「放射能除染に求められる様々な技術の確実な実施に向かって(除染・浄化、運搬、減容化・再生利用、保管・中間貯蔵、分析、モニタリング・計測、作業安全)」をテーマに開催され、無事成功裡に終了することができました。これもひとえに出展、参加いただいた皆さまの多大なるご支援とご協力の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

ポスター発表は、1日目および2日目ともに1時間の発表時間でしたが、企業展示との併設の相乗効果もあり、発表時間が終わっても熱心な質疑応答が行われていました。

企業展示には41団体に参加いただきました。出展内容別に大まかに分類すると、計測技術:15団体、除染技術:7団体、保管・貯蔵技術:13団体、水処理技術:2団体、その他の関連技術:4団体で、これまでよりも保管・貯蔵技術の出展が増える傾向となりました。計測技術では実機の展示が多くなり、具体的な技術を目の前に、活発な意見交換が行わ

れていました。

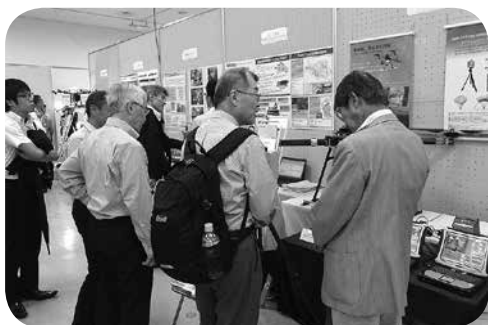
また、除染情報プラザ様および中間貯蔵・環境安全事業株式会社(JESCO)様の他、今年の7月21日に全施設が開所された福島県環境創造センター様にも併設展示に参加いただきました。

今回、地元NPOとして、一般社団法人 南相馬除染研究所/一般社団法人 えこえね南相馬研究機構様、行健除染ネットワーク様と環境保護の関連団体等のキリバス共和国名誉領事館様、公益財団法人 日本自然保護協会様の計4団体に参加いただき、日ごろの活動や美しい自然を引き継ぐことの大切さなどをご紹介いただくといった新たな試み「市民も学べる、対話できる環境展」も行いました。

ポスター発表／企業展示会場は一般公開としていますので、広く市民の方々にも参加いただけるよう、新たな試みを企画し、出展企業と発表会参加者との相互交流・情報交換の場となるようにしていきたいと思います。

(企業展示・ポスター発表会場担当実行委員
石渡寛之:西松建設株式会社)

▼実物を前に活発な意見交換

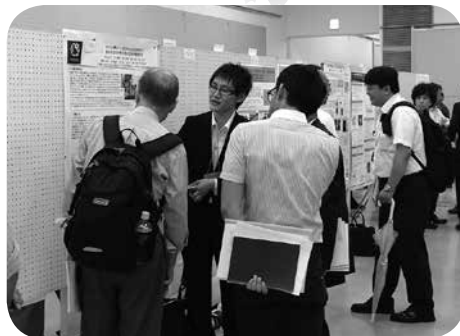
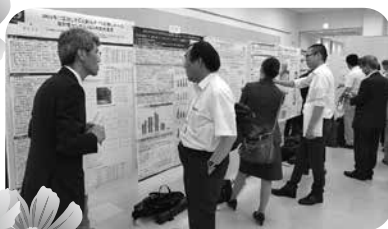


活気あふれる展示会場▼▶



▲あちこちでポスターに
伸びる指

熱心な質疑応答▼▶



(3) 環境団体、市民団体による展示

本研究発表会を市民の皆様に参加いただける開かれた会とするため、ポスター発表会場および企業展示会場への入場を無料ということでポスター配布しました。また、今回は市民にも親しみが持てる企画として、環境団体等や市民活動団体に展示のご協力をお願いしました。

開催内容や趣旨を市民の皆様にご覧いただくため、河津実行委員長と事務局の峠で地元の福島民報社様、福島民友社様にPRに行き、開催の記事として取り上げていただきました。会場前にも『第一回市民も学べ・対話できる環境展』という立て看板を掲示しました。ただし、平日であるためなかなか市民の参加は少ないのが実態でした。今後の課題です。

NPO、地元市民団体として展示いただいた各団体は右表のようですが、展示いただいた皆様にはご多忙中にも関わらず、本当に素晴らしい展示をいただき感謝する次第です。

なお、環境保護団体との折衝をしていただいた伊藤哲郎

実行委員にはご苦勞様でした。また、地元NPOにお声掛けいただき、調整をお願いした環境省福島再生事務所様および除染プラザ様には心より御礼申し上げます。

(実行委員会幹事長 峠和男)

分類	団体名	展示概要
地元団体	行健(こうけん)除染ネットワーク	郡山市での市民による線量測定ボランティア活動の紹介
	一般社団法人南相馬除染研究会	(南相馬における地域の復興の取組紹介) ・地域の放射能汚染の測定や除染活動紹介
	一般社団法人えこえね南相馬研究機構	・復興と省エネや再生可能エネルギー普及等との関連活動紹介
環境保護団体等	公益財団法人日本自然保護協会	絶滅危惧種の保全や福島を事例とした環境教育などの活動紹介
	キリバス共和国名誉総領事館	太平洋上に浮かぶキリバス共和国の紹介と海面上昇の影響などの紹介



▲公益社団法人 日本自然保護協会展示



▲キリバス共和国 名誉総領事館展示



▲行健(こうけん) 除染ネットワーク展示



▲自然保護協会展示前で。説明担当と森田理事長、伊藤実行委員



▲キリバス共和国展示前で。名誉総領事ケンタロ・オノ様と菊地実行委員



▲(一般社団法人) 南相馬除染研究所&えこえね南相馬研究機構の説明担当者と峠実行委員

(4) 地元物産展について

今回は会場も広がったことから、福島県民の皆様へ少しでも貢献できればという趣旨で物産展を企画しました。物産展に参加希望の店舗等については福島市観光コンベンション協会様に労をお願いして募集していただきました。物産展に参加いただいた店舗を下表に紹介いたします。紙上ではありま

すが、各店舗様本当にご出展ありがとうございました。

実行委員会では、せっかく出店いただいたが販売不振であれば申し訳ないと心配であり、関係者にご協力をお願いしました。初日の開店は企業展示ホールの入口である3階ギャラリーでスタートしましたが、午後から参加者が必ず通る1階の受付前に変更することになりました。

第1日目(7月7日)は、売上が低調であったようですが、桃

等は最終日の7月8日にはそれなりに繁盛していたようです。お酒販売の金水晶酒造様は8日のみの販売となりました。なお私も各店に営業協力させていただきました。

(実行委員会幹事長 峠和男)

出店者名	販売品	販売状況イメージ
ししどりんご園	桃	好調(宅急便送付)
佐久商店	いか人参等	苦戦
寿楽園茶舗	薬草茶、茶	苦戦
金水晶酒造(7日のみ出店)	地酒	まずまず?



▲1階入口前に場所を移して

(5) 懇親会の開催状況

研究発表会初日の7月6日(水)の18時から、会場を福島駅前「ザ・セレクトン福島(旧福島ビューホテル)」に移して懇親会を開催しました。

懇親会には、当日参加者の半数にあたる約150名の皆さま方がご参加くださり、広い懇親会場が手狭に見えるほどでした。

塚田高明大会副委員長(学会副会長)の開会挨拶に続いて、ご来賓の環境省福島再生本部 副本部長 小沢晴司様、着任したての環境省福島環境再生事務所 除染対策第一課長 須田恵理子様、同 放射能汚染廃棄物対策第一課長 坂井美穂子様からはファイト満々のご挨拶をいただきました。乾杯のご発声は7月23日にグランドオープンする福島県環境創造センター所長である角山茂章様からいただき、会は和やかに進行しました。

会場には7月8日(金)の国際シンポジウムご講演者の大西康夫様(ワシントン州立大学)もご参加くださり、また、会場半ばには、中間貯蔵・環境安全事業株式会社 中間貯蔵管理センター福島事務所長である油井理様も会議終了とともに駆け付けてくださり祝辞をいただきました。また、今回は市民参加を促し対話もできる企画として特別展示をいただいたキリバス共和国名誉総領事のケンタロ・オノ様にもご挨拶をいただきました。

このように多様なご来賓、ご講演者を交えた意見交換や懇親が会場の至る所で行われました。ご参加の皆さまには有意義な時間をお過ごしいただけたことと存じます。

ホテルのご厚意で美味しい地酒がふんだんに振舞われ、森田昌敏大会委員長(学会理事長)の中締めまで、途中退席される方もほとんどおられず、盛会のうちに19時半過ぎにお開きとなりました。

ご参加くださった皆さま方に、心より感謝申し上げます。

(懇親会担当実行委員 湯浅建:鹿島建設株式会社)

▼塚田大会副委員長の開会挨拶



▲各来賓などからのご挨拶
(環境省 左から小沢晴司様、須田恵理子様、坂井美穂子様)



▲JESCO 福島事務所長 油井理様



▲ゲスト:キリバス共和国
名誉総領事
ケンタロ・オノ様

◀ワシントン州立大学 大西康夫様



会場での意見交換や
懇談の様子▶▶

◀福島県環境創造センター所長
角山茂章様より乾杯のご発声

(6) 国際シンポジウム開催状況

わが国で除染を始めてすでに5年の経験を得ています。このような経験は世界で初めてともいえます。関係者からは、この問題の経験者として世界に情報発信する時代になったのではという意見もいただいております。

そのような意義も考慮して、我が国の状況等を理解するという観点から、プログラムに示すとおり環境省の小沢様から「日本における除染・中間貯蔵の現状について」、JAEA（日本原子力研究開発機構）の飯島様からは「山地・森林におけるセシウムの移行挙動」、福島大学の難波様からは「環境における放射性セシウムの挙動と除染技術について」、また、これからの大きな課題である「減容化技術の現状と課題」という演題で中間貯蔵・環境安全事業株式会社の谷津様からご講演を賜りました。

また、海外から招聘したワシントン州立大学大西様からは

「環境動態のモデルシミュレーションおよびセシウム除去技術について」、米国EPAのジョン・リチャーズ様には「放射能リスクコミュニケーションに係る米国環境庁の見解」という演題でご講演をいただきました。本講演内容等について招聘講演者の皆様方にお持ち帰りいただき広く海外に情報伝達していただければ幸いと考えます。なお、リチャーズ様には先行して福島県に来ていただき仮置き場等の見学をしていただきました。ご案内をいただいた亀元実行委員、蛭田実行委員にはお手数をかけました。

会場には約150名余りの参加をいただきました。シンポジウムの進行は例年と同じように逐次通訳で開催しました。通訳をお願いした国環研の柴田康行様、EAインターナショナル合同会社の亀元宏宣様、フリージャーナリストの戸田有信様には大変お世話になりました。

開催概要に付きましては、217ページからの概要記事をご参照ください。（実行委員会幹事長 峠和男）

小沢講師▶



▲リチャーズ講師



▲難波講師



飯島講師▶



◀谷津講師



▲大西講師

◀座長の森田
理事長より
開催の挨拶

